

「唐丹希望基金」EEC 通信 126 号 2021-12
ー唐丹小中学生に届ける鎮魂と平和の思いー

心の旅「鎮魂と平和」 再び唐丹へ

山川 節子（東京都）

11月10日に唐丹に行きました。



唐丹希望基金の活動を通して知り合ったワカメ漁師の大向惣三さんのお見舞いが第一の目的で。そして、支援活動に協力してくれている私の高校時代の恩師を、是非、唐丹に連れて行きたいとの思いからでした。

恩師、影山美知子先生は、東日本大震災後、福島県飯舘村を何度も訪れ、「飯舘村を歩く」という著書も出版し、今も村の人たちと交流を続けていらっしやいます。津波の被害で自分たちも大変だろうに、その唐丹の中学から飯舘の給食センターにワカメが送られてきて感激した話を村の人から聞いていて、その「唐丹」ということで、支援に加わっていただきました。

私自身は卒業式や文化祭で何度か唐丹に行っていましたが、2020年の3月の卒業式には先生と一緒に参列をと思っていました。ところが、コロナ禍で取りやめに。いつかきっと・・・と思っていたのが、今回実現。

たいへんお元気とはいえ、米寿を迎えた先生には長旅だが、お誘いすると、「行きたい！」と即答が。という訳で恩師との二人旅となりました。

早朝の新幹線で盛岡へ。高館さんの運転する車で大向さんの住む復興住宅に向かいました。急に病院の診察が入り、私たちが到着したときにはまだ戻って来てなくて、お土産と置き手紙を残してきました。お会いできなかったのは残念。でも、

ここは旧大石小学校の跡地で、校門と校歌の歌碑が残っています。

横のボタンを押すと今でも校歌が流れます。廃校に際して、記念に作ってもらったのだ、と以前、大向さんから聞きました。もう消えかかっているけれど虎舞の絵が描かれた校庭の壁も、大向さんが学校のPTA役員をやっていたときに子どもたちのために作ったお滑り台も！子どもたちの教育への地域の大人たちの熱心な支え、それを今でも感じられる場所です。

大向さんは、厳寒の海に入り、早春の早採りワカメを毎年、私たち支援者に送ってくれていました。自分

の母校でもある唐丹の学校の子どもたちへの支援をありがたい、感謝の気持ちを伝えたくてと。

唐丹小中学校では両校の校長先生が迎えてくださいました。



今年度、両校とも校長がかわられ、高館さんも初対面。多忙な仕事に時間を割いて対応してくださいました。今年度の支援の具体的な話しや高館さんの熱い思いが語られ、時間オーバーにならないか、ちょっと冷や冷やもしましたが。校長はお二人とも若い！（私たちが高齢になっただけか？）そして、澁刺としている。送っていただいている両校の学校通信で、地域に根ざした丁寧な教育をされている様子は伝わっていましたが、お二人に直接、お会いできてよかったです。

久しぶりの学校訪問。

プレバブ校舎で学んで卒業式を迎えた生徒たちは、どんな風に成長しているだろう？文化祭で見た見事な虎舞、地元の大人から習うのだそうです。大向さんの手紙で、甥の孫も今年、中学3年生で、虎舞の練習をしているとのことでした。今の中学生は震災当時、2歳から5歳でほとんど記憶はないようですが、内陸部の中学校と復興学習交流会を開いて、当時の校長先生から震災時の中学校の様子を聞いたりして、その学習の様子も学校通信で読むことができました。子どもたちは日々、いろいろ学んでいますね。嬉しいことです。

恩師と一緒に眺めた唐丹の海は穏やかでした。美しい紅葉の中、眼下に広がる唐丹の青い海は今も目に焼き付いています。前日は大荒れだったそうですが。

震災があって、私は唐丹に出会いました。

自然は時に猛威を振るうが、自然の恵みの中で私たちは生きています。美しく豊かな恵みの海を臨む学校で、先生や地域の方たちに見守られ、子どもたちが安心して豊かな学校生活を送り、逞しく成長することを願っています。

子どもたちは 未来へつながる希望 です。